

平成24年度 同好会事業報告

子どもの心を感じる会同好会 世話係名 小平 直司 会長名 堀内 さとみ

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参加人員
6 月 3 0 日	アドラー心理学の勇気づけ グループエンカウンター	8 名
8 月 1 日	夏期講習会 自分自身を知るための講義と演習 事例検討会	9 名
2 月 2 日 (予定)	(予定) 事例検討会 描画から読み取れる子どもの心	

本年度子どもの心を感じる会では「子どもの心を感じる窓口を広げるために」をテーマに投影法を中心に研修を重ねています。夏期研修会には、上級教育カウンセラーであり、現在松本ろう学校の校長先生をされておられる米持絹子先生を講師にお迎えして研修をしました。

午前は、米持先生が今まで関わってこられた子どもたちの描いた絵を見せていただきました。左上に四分の一だけ描かれた太陽のある家族画からは父親の存在が感じられないとのことでした。また後ろ向きになって家族みんなで手をつないでいる絵からは自分はこの家族の中では生きていけないという、強いメッセージが描かれていることを学びました。何気なく描いた一枚の絵に家族関係が浮かび上がってきていることも分かりました。このように一枚の絵の中にその子が発信するメッセージがあり、それを見た大人に訴えているように感じました。

午後は、実際に参加者一人ひとり一本の木を描きました。するとそこには自分自身でも感じていない、無意識の世界が表れていました。参加者の描いた絵を見ながら米持先生に体の状態や心の有り様をお話していただき、初めて自らの心に気づき新しい自分自身を発見しました。これは米持先生がお子さんと接する時に、お子さんの心の奥にある温かさやつらさと向かい合っておられる感性だと思いました。

子どもの心が投影されている一枚の絵や一つの箱庭などの作品を通してその子の心の有り様を感じていくことが、子どもの心を理解する上でとても大切であり、それにより次に子どもと関わる時にこちらが少しでも多くの窓口を開いていけるのではないのでしょうか。自分自身が自分の心について知り、子どもの心に寄り添えるよう、今後も投影法を中心に研修を進めていきたいと思っています。

(会長 堀内 さとみ)